

第73号、対馬市立博物館条例の提案の折、小島徳重議員からの質疑に対し、誤った答弁をいたしましたので、おわびを申し上げ、訂正させていただきます。

その内容は、対馬博物館の観覧料の減免に関し、対馬市内に居住する高校生の観覧料は、全額免除になると答弁いたしましたが、正しくは条例で定める高校生、大学生の観覧料330円から110円を減額した220円でございます。

以上のとおり訂正をさせていただきます。申し訳ございませんでした。

日程第1. 市政一般質問

○議長（小川 廣康君） 日程第1、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は4人を予定しております。

それでは、届出順に発言を許します。2番、伊原徹君。

○議員（2番 伊原 徹君） おはようございます。初めに、新型コロナウイルスの拡大により、都市部への移動制限に加えて、個人消費の低迷により4月から6月期の国内総生産の落ち込みは最大となり、世界の国々の社会経済に大打撃を与えるなど、現代社会は危機的状況に陥っています。

また、近年では、大気の状態が不安定で、気候変動による猛暑、さらに集中豪雨により河川の氾濫によって家屋や農林水産被害、台風通過によって、悲しいことですが、尊い命が失われるなどの人的被害も発生しています。

新型コロナウイルスと相まって、我が国の生活形態にも深刻な影響を及ぼしており、一日も早い感染症の収束が求められています。

さて、本日の質問内容でございますが、観光産業への取組として、第2期対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略から見た国内外観光客の目標値の考え方と、重要業績評価指標で示された達成目標戦略のうち、国内外観光客数の設定についてお尋ねいたします。

第1期対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略が、平成27年12月に策定され、本市の進むべき将来像がまとめられています。

策定から5年が経過し、新たに本年4月に第2期対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げられていますが、平成30年末の国内外観光客数53万7,122人から、5年後の令和7年度末の目標値は、約12%増の60万人に設定されています。

あくまでも目標値でしょうが、60万人に設定されたその根拠を御説明いただきたいと思います。

次に、新たな国内観光客誘致への施策ですが、先ほど述べましたが、新型コロナウイルス拡大に加えて、気候変動による猛暑や集中豪雨による災害発生など、地球環境に大きな変化をもたらしています。

特に、新型コロナウイルス拡大によって、それぞれの地域間の移動制限によって経済の低迷に加えて観

光産業にも多大な影響を及ぼしています。

近年の観光需要では、様々な外交上の問題もあり、近隣の諸外国からの来島者はゼロに等しく、従来の数値は見込めないと予測されます。

このため、継続した観光産業を考慮しますと、国内からの誘客が最も効果的であると思いますが、多くの観光客の来島を目指すための取組は行われていると理解していますが、その進捗はどのような状況か、お尋ねをいたします。

次に、2点目でございます。

新たな観光資源創出としまして、宗助国公騎馬像とプレイステーション4ゲームソフト「ゴースト・オブ・ツシマ」の融合による史実の新たな展開についてお尋ねいたします。

1点目は、第2期創生総合戦略におけるゲームアプリ観光誘客推進事業（新規）の記載の総合戦略における誘客推進事業は、本年7月中旬に発売された1274年の元寇の役を題材にしたゲームアプリ「ゴースト・オブ・ツシマ」を活用した事業展開として解釈してよろしいでしょうか。

2点目でございますが、宗助国公騎馬像と元寇を題材としたゲームソフトの融合による新たな観光産業についての質問でございます。

今から4年前、上対馬町在住の武末裕雄様が、小茂田浜神社を題材に連載されました2016年の第13回対馬新聞に寄稿された紙面によりますと、「小茂田浜での元寇の合戦におけるフビライ皇帝軍と対馬宗一族の戦いのゲームソフトを開発し、世界中で販売したい」とのことで、日本側制作社の開発者とアメリカシアトルの制作会社の開発者を含めて5名の方々が来島されていたと記載されていました。

例年11月に開催されています小茂田浜神社の大祭前夜と大祭当日に、制作取材に来島後、ゲームソフト「ゴースト・オブ・ツシマ」は4年の歳月を費やし、本年7月中旬にアメリカで発売されたと同時に、3日間で全世界累計240万本販売され、記録的なヒット作となっていると報じられていました。

ゲームソフト「ゴースト・オブ・ツシマ」は、文永の役を題材にして主人公の侍が元軍に対して逆襲をするストーリーで、背景には対馬の景勝地が見事に描かれています。

さて、本年8月に746年の時空を超えて、小茂田浜神社の一角に宗助国公の騎馬像が建立されました。

騎馬像除幕式の模様は、新聞紙上やCATVで報じられましたが、9月上旬には週刊誌にも取り上げられています。

騎馬像の寄贈者は、上対馬にお住まいで、対馬歴史顕彰会の会長の要職にあります武末裕雄様と御長女の武末聖子様の御好意により、元寇激戦地の一角に建立されました。

また、参道のバリアフリー化の御支援も含めまして、武末家の皆様には、この場をお借りし、改めまして感謝の意を申し述べます。ありがとうございました。

このように、文永の役を題材とした2018年に連載された「アングルモア元寇合戦記」。このたびのゲームソフトは、746年前の本市での痛ましい歴史を如実に表し、新たな視点から本市の存在を全世界に発信する絶好の機会でもあります。

文永の役での激戦地であった本市の景勝地を世界の人々に広げるために、現代社会における北部から南部に至るまで、数々の観光名所を一つ一つクリアし、最終的には、宗助国公騎馬像に到達できる時間を競うゲームソフトができないか考えているところです。

このことは、本市の数々の観光名所を新たな視点に立ちアピールできるチャンスと捉え、観光産業が生き延びるために行政がゲームアプリを開発し、大会を実行する画期的なアイデアと考えますが、いかがでしょうか、御見解をお願いいたします。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） おはようございます。伊原議員の質問にお答えいたします。

初めに、観光産業への取組についてでございますが、令和2年3月に第2期対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略として、令和7年度末までの人口減少対策の取組指針を策定しております。

この中で島の魅力、独自性を生かした交流、移住、定住を拡大するという重点戦略の中で、国内外の観光客実数の目標値を令和7年度末には60万人としていることについての御質問でございますが、まず、平成30年度の53万7,122人は、長崎県の観光統計の数字を基にしており、韓国人観光客が41万人を超えた年の人数となっております。

御案内のとおり、昨年からの政府摩擦による韓国人観光客激減に始まり、春からの新型コロナウイルス感染症の影響で観光客数は激減の状況であります。

よって、令和2年度の国内外の観光客見込みを11万人とかなり低く見積もっているところでございますが、国際航路の再開も見通せない中、さらに厳しい数字となるのではないかと推測されます。

令和3年からは、コロナ感染症が収束する前提で目標値を設定しており、韓国以外のインバウンドにも積極的に取り組む予定としておりますが、世界全体がコロナ禍前の観光移動人数に戻るには数年かかると言われており、韓国人観光客にしても、日本不買運動の影響が残っており、すぐに前の状態に戻ることは難しいと考えております。

コロナ収束後の急激な戻りと、数年の低調な伸び率、その後の一定の増加を考慮し、令和7年度の60万人の内訳は、国内客20万人、韓国からの観光客が32万人、その他の外国から8万

人として目標値を設定しているところであります。

しかしながら、このような状況が数年長引けば、目標値の達成は非常に厳しくなるのではないかと感じているところでございます。

また、新型コロナウイルス感染症の影響は、議員がおっしゃるとおりでございまして、その中の国内客、誘客の取組についてでございますが、いわゆるウイズコロナの取組を強化、継続していかねばならないと考えております。

今後は、感染予防に万全の体制を整え、観光客を受入れなければ観光地として選ばれなくなる可能性があります。

現在、観光業新型コロナ対策協力金を給付しながら、観光業の皆さんに業種別ガイドラインの遵守をお願いしているところでありまして、安心して訪問していただける体制を構築し、継続してまいりたいと考えております。

また、後ほどお答えいたしますゲームの「ゴースト・オブ・ツシマ」の爆発的人气、最強の城に選ばれた金田城、アナゴやノドグロ、対州そばといった食の魅力などを全面に出しながら、旅行者への営業、観光PR、おもてなしセミナーの開催に加え、SNSによる発信力を強化していきたいと考えております。

対馬市民の一人一人に、対馬の風景や風俗、普段の生活の一コマを写真入りで発信していただき、対馬の魅力を広げていただきたいと考えております。

これに伴いリモート会議やSNSの操作講習会、いわゆるオンラインスキルアップ事業などを展開していきたいと考えています。

次に、新たな観光資源の創出についてでございますが、御存じのとおり、ソニー・インタラクティブエンタテインメント、以降はS I Eと省略させていただきます。

S I Eからは、7月17日に元寇を題材にし対馬を舞台にしたゲームソフト「ゴースト・オブ・ツシマ」が発売されました。これは、発売3日間で国内21万本、全世界240万本を売り上げたとの情報が入っており、大ヒットになっております。

今年のゲーム・オブ・ザ・イヤーを受賞するのではないかともうわさされるほど素晴らしい作品だと聞いております。

御質問の総合戦略中のゲームアプリは、これに当たるのかということでございますが、結論から言いますと、この「ゴースト・オブ・ツシマ」だけの事業展開ということではありません。もちろんその中心となることは間違いありませんが、他の位置情報ゲームなどについても、対馬の特性や関連を模索し、取り組めればと考えています。

また、議員のおっしゃるとおり、小茂田浜神社に、宗助国公の壮大な騎馬像が建立されました。対馬の壮絶な歴史を今に伝え、体感できる観光名所としての価値を高め、国境の最前線であり続

けた対馬の歴史検証に大きく貢献するものと期待しているところであります。寄贈者には、深甚なる敬意と深い感謝を表する次第でございます。

「ゴースト・オブ・ツシマ」の大ヒットにより、対馬は日本国内のみならず全世界から注目を集めているところでありまして、いわゆる聖地巡礼で訪れた観光客の写真映えする背景として、この騎馬像が選ばれることは間違いないと思われま。

S I Eやゲーム制作会社には、昨年度末から対馬市と一緒にプロモーションを展開しましてとアプローチしており、委託会社を介して連絡をとっているところであります。

しかしながら、タイミング悪く、現在の新型コロナウイルス感染拡大により、先方の意向や権利関係の問題もあり、一定期間はプロモーション活動にある程度の制限をかけられている状況でございます。

ただ、既に公開しているS I E公認の特設サイトは、対馬市と長崎県観光連盟、対馬観光物産協会の共同で作成したもので、ツイッター等のSNSの評価を見ても非常に好感が持てるコメントが多数寄せられているところでございます。

現在、S I Eと相談をしながら、コロナ禍収束後には多数の聖地巡礼来島者を迎え入れられるよう、また、御満足いただけるよう準備を進めていきたいと考えております。

宗助国公の騎馬像とゲームとの融合についてでございますが、直接的な融合は困難かもしれませんが、聖地巡礼の方々、特に、若年層に向けた魅力あるコンテンツとして、また、対馬の歴史に興味を持っていただける象徴として間接的に騎馬像との融合、もしくは活用ができるものと考えております。

行政がゲームアプリを開発して大会を実施してはとの御質問であります。いわゆるスタンプラリー的なアプリは作成可能です。実際に、アンゴルモアのスタンプラリーアプリは既に制作し、2年前に実施しております。このような取組を今後も継続して進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 2番、伊原徹君。

○議員（2番 伊原 徹君） ありがとうございます。

まず、国内観光客の実数53万7,122人につきましては、長崎県の観光連盟からの指数ということで、これから5年後の60万人ということにつきましては、国内が20万人、それから、韓国が32万人、その他の方々が8万人ということで、内訳が60万人ということなんですが、現況を申しますと、非常に国内の20万人も非常に厳しゅうございますですね。

これは、東京23区を除いて今1,800近くの地域がございますけれども、それぞれの地域が創意工夫しながら、観光客誘客に向けていろいろ御努力されているということでございます。

それから、本市におきましては、皆様、御承知と思いますけど、2年前の元寇を題材にした、たかぎ七彦先生原作のアニメ「アンゴルモア元寇合戦記」、これもテレビ放映もされましたし、非常に本市にとっても明るい物語の一つであったなというふうに私自身感じています。

それで、その隣国からの設定の20万人、32万人は非常に厳しいかと思しますので、このあたりをどういうふうに国内にシフトして目標値まで進められるのか。そのあたりを少し施策の中で戦略はございますか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 昨年の11月から政府また県からの御支援を頂きまして、国内観光客の誘致に向けて努力をしております。

幸い、このコロナが感染拡大する前には、かなりの国内客の方々が対馬に訪れていただきましたけれども、2月までは右肩上がりが増えてきておりましたが、3月になりまして、これもまた急激に激減をしたというようなことであります。

今はまた、政府のGoToキャンペーンや県の事業で、再度また少しずつではありますけれども、国内観光客が伸びつつあるというふうに認識をしております。

そういった中で、先ほど議員のほうからも質問がございましたように、「ゴースト・オブ・ツシマ」も発売され、対馬の観光産業にとっては明るい話題となっております。

そういうことで、今現在、対馬市では、これらの観光客のお客様に、また再度来ていただけるように、おもてなしの関係をもう少し高めていこうというようなことで、対馬振興局のほうと力を合わせながら進めているところでございます。

まず、何と言いましても、その題材は、対馬は豊富な題材を持っているわけでありますので、これに対して再度多くの方に来ていただけるようなおもてなしの向上、そしてまた、そのサービス等に今後努めてまいりたいというふうに考えているところでございます。

○議長（小川 廣康君） 2番、伊原徹君。

○議員（2番 伊原 徹君） この観光の数値目標、ちょっとこだわるんですけど、非常に53万7,122人という数値は、ちょっと私感じているところは、アバウトな数字じゃないかなど。どのような、正確にはなかなか厳しいと思うんですね。それで観光客のみならず、当然ビジネスの方々もおいででございまして、あくまでもその観光だけを捉えた場合に、果たして何名なのか、今まで。

今はこういった状況でございまして、カウントはある程度スムーズに円滑にいけるんじゃないかと思いますが、きのう実はその神社の清掃作業が地域でございまして、午前中で終わりましたけれども、車、タクシーが1台、それから、乗用車で1台、8名程度お見えでした。

日曜日と重なって天気もよかったせいもありましょうし、いずれにしましても、今回、そうい

った観光に向けては、市長おっしゃるように明るい兆しが今後進められるんじゃないかと思っております。

それで、これ観光と付随するお話ですけれども、タブレットの中に、資料ございますかね、棧原線の。その標識なんですけど、上見坂、矢立山古墳、それから、小茂田浜神社、その3つの標識なんですけど、ちょうど巖原中学校を左折しまして約2分弱のところに位置したところにございました。

それで、その看板は、それでよろしゅうございますけれども、実は、観光物産協会のホームページを確認いたしましたら、観光物産協会から目的地まで車で何分という表示がされていました。これは、非常に初めての方にとっては優しい表示じゃないかと。

今、皆様御覧になっているその標識は、それはそれで県が恐らく作成されているんじゃないかと思えますけれども。

きのうCATVの中でも、もみじ街道、写真つきの大きな看板。それから、きょう、こちらに参るときに、あそうベイパークの看板、それから、神話の里自然公園、大きな絵の、写真つきの、ああいった形で、その例えば、今その皆さんのお手元に示している、その看板の下に小茂田浜神社の境内の写真とか、それから、上見坂公園、そして、もう一つの写真を、写真つきのその看板をあの近くに立てられたらいかがかと。

それで、キロ数については、今カーナビあたりで皆さん、移動されてありましょから、できれば、その目的地まで何分と、この時間表示は私は優しい、観光客に優しく映るんじゃないかというふうな感じを持っています。

このことについては、ちょっと気持ちの中で、市長さん、いかがですか。そのキロ数表示というよりも時間表示をして、それから、観光地の写真の大きな看板を目立つように、そこに建立すると。

それから、時間。これから何分後ですよというようなことが優しいんじゃないでしょうか。いかがですか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） まず初めに、この看板は、市のほうが設置している看板であります。それとまた、あそうベイパークやら北部のもみじ街道、そして、神話の里、こういったところの写真つきにつきましても、これも市のほうが設置をしているところでございます。

今、お話がありました小茂田浜の観光地のほうにも、まず観光客に優しいということで、まず、時間を表示したらどうかということと、また、その写真で説明ができるような看板を設置したらどうかということとありますので、このことにつきましては、また、観光部局、そしてまた、観光物産協会等と前向きに検討をしてみたいというふうに思います。

○議長（小川 廣康君） 2番、伊原徹君。

○議員（2番 伊原 徹君） どうもありがとうございます。よろしくお願いいたします。

全国発売の雑誌に、9月3日号で「韓国人が消えた対馬に神風が吹くと?」、これはちょっとすみません、そこに書いていないと思います、雑誌のほうですから。

それで、2017年、36万人、18年には41万人ということで3万人の対馬を訪れた韓国人の人数であると。

大にぎわいだった免税店は休業日。ホテルの新築ラッシュもストップ。日韓関係悪化と新型コロナダブルパンチで対馬は以前の3万人の離島に戻ったと。だが、意外なところに希望の光が見えてきたと。これは、市長もそういったことで今施策を十分進められていると思います。

その中に、やはり先ほどもありましたゲームのアプリもございました。それから、聖地巡礼ということも、パンフレットの紹介をしているということで、観光物産協会が今主になっているいろいろ観光に向けての取組をされていると私も十分認識はしております。

市のほうは、それなりの予算を当然計上しながら進められているとっておりますので、こういった追い風が吹いておりますので、もし御覧になっていなければ、後ほどコピーでございますけれども、お渡しをいたしますので、しっかり勉強してください。よろしくお願いいたします。

観光につきましては、いろんな手だてがございます。それから、予算も伴うこともございます。これから国内観光客の方々が、国内から多くの方々がお見えになるような施策を観光物産協会等も踏まえて懸命に御努力をさせていただければなど。やはり、観光がないと寂しい島になってしまいます。観光に訪れて、ああ住みたいなということも可能性としたらございますので、そのあたり十二分に御検討くださいませ、お願いをしたいと思います。1点目、終わります。

2点目でございます。

予算の関係で、表紙しかちょっと作っておりません、私の予算の関係で。

これは、平成2年度から令和7年度まで対馬市が作成されました「みんなで力を合わせて未来をつくろう！自立と循環の宝の島つしま、第2期対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略」ということで今までお話をさせていただきました。

非常に中身を見てもみますと、素晴らしいことがずっと、計画も目標に向かってそれぞれ進んでいるとっております。

それから、先ほどもお話ししましたがけれども、ことしの8月1日にその小茂田浜神社に寄贈されました宗助国公の騎馬像の除幕式が盛大に行われているところでございます。

これは、除幕式の前日に撮影した写真でございます。746年の文永の役で蒙古の大軍に果敢に立ち向かった対馬当時の守護代、宗助国公の騎馬像が時空を超えて、こうしてよみがえってまいりました。当時は、我が国にとって最大の国難であったと言えます。史実にも登場する元寇と

の戦いを後世に残す役割が、このたびの宗助国公の騎馬像じゃないかと考えております。

最近で、元寇を題材とした物語が脚光を浴びております。新型感染症で地域間の往来が制限されている今、在宅勤務を強いられており、ストレス解消のためのオンラインゲームということでアピールが有用じゃないかということで御提案させていただきました。

この件につきましては、いろいろ制作会社のほうと協議をしておると思います。それについては、結論はまだこれからだということで、非常に喜ばしいことでございます。

それで、そのゲームのお話ですけど、これは、佐賀県の松浦氏、この方御存じですかね。西海一の水軍、これはまつら——松浦ですけど、当時は松浦党ということで、コミックを作成されてあります。

「元寇で活躍した西海一の水軍、松浦党とは」ということで、小学生向けに配布をされているというところでございます。

これは、国の交付金を活用されて作成されるということで、史実を、歴史を後世に残すということで、この方御存じですか、見られていますね。

このようなことで、市のほうもその元寇を題材にした書籍を作成してありますので、このあたりの取組も、やはり市内の小中学生、高校生も含めた子どもたちにおいて、その史実の正しい歴史認識を後世に残すという役割をぜひお願いしたいというふうに考えております。

教育委員会の方、これ御存じですかね。さすがです。

それでは、そのゲームソフトの作成の話をしていただきましたけれども、先ほどの「ゴースト・オブ・ツシマ」につきましては、これ全世界で相当数が売れております。このことは、古代の対馬が見事に描かれた作品でありまして、私は、現代社会の景勝地や観光名所をめぐる時間を競うということで、北部から中部、それから、南部、四季折々の地域めぐりもいいでしょう。観光名所めぐりもいいかと思いますが、単純かも分かりませんが、このようなアイデアをゲーム制作の御専門のクリエイターに少しできないかという可能性を含めて御相談を進めているということは非常に喜ばしいことでございます。

ゲーム名は、私はちょっと考えてみました。「ツーリスト・アトラクション・オブ・ツシマ」ということで考えております。参考になればと思っております。あんまりいい顔はされませんでしたけれども。

私たち、当然、二度と争いのない恒久平和のため、次世代の子どもを中心に正しい歴史認識を伝える役割ということは、もう何回も言いましたけれども、求められております。

これからも対馬市としての永続した観光産業の成立ということで、対馬の存続が重要な課題というふうに考えております。そのためにしっかりと子育て支援に取り組まなければならないと思っております。

それから、先ほどのその循環のこの資料の中に、総合戦略では平成30年末の合計特殊出生率が2.18から2.40ということで、これは非常に厳しい数字だと思います。

多額の予算も必要でしょう。それから、結婚適齢人口の向上は、相当の御努力が必要かと思えます。行政ができること、それから、私どもでできること、目標に向かって成果に近づく努力が必要ということで、担当部局だけでは限度がございます。目標に近づくように日々努力をさせていただきたいというふうに考えております。

それで、この「自立と循環の宝の島つしま」、ちょっと図工がありますから。この中に、私は、その「自立と循環の子宝の島つしま」ということを一字挿入して、きょうの質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

以上です。

○議長（小川 廣康君） これで、伊原徹君の質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 暫時休憩します。再開を10時55分からといたします。

午前10時41分休憩

午前10時54分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

引き続き市政一般質問を行います。

11番、波田政和君。

○議員（11番 波田 政和君） 皆様、おはようございます。会派つしま、11番議員の波田政和でございます。

世界的に感染が広がっていますコロナ予防対策での取組で、何かと御多忙な時間とは存じますが、私どもにとっては、貴重な定例会でございますので、御質問させていただいた次第であります。特に今回は市長へのお願いと本市の考え方をお尋ねしたいと考えております。

質問に入る前に申し上げますが、私は決して、行政がなされることに疑義を申すものではありませんし、市民皆様の代弁者として、いろいろな角度からお尋ねするものでありますので、市民の皆様が分かりやすく、御納得いただける御答弁をお願いするものであります。

また、私が今回の質問通告をしてから約1か月間、通告内容に対する検討がなされる期間がありましたことから、その内容について、十二分の御理解ができてあるものと思っていると同時に、何らかの方向性が示されるものと期待をしておりますので、よろしく申し上げます。

まず、初めに、南部地区道路整備についてであります。前回の会議においても、同様の質問をさせていただいておりましたが、この安神から浅藻までの道路整備について、長崎県と対馬市